

事例9

入院をきっかけに、亡くなった後の事やお墓の事などを意識するようになり相談を受けた。身元保証や死後事務委任についての説明をしていただけますか？

80代の独居男性。妻は他界、子供なし。親戚はいるが遠方・疎遠のため、何かと頼めない。短期入院から退院した後、ご自身の死後の事を頼める人がいないと、ケアマネジャーが相談を受けた。
万が一の緊急連絡先がない利用者だったので気がかりだったが、本人が「説明を聞いてみたい」と言っているので、説明して欲しい。

ご本人情報

[年齢] 86歳

[認定] 要介護2

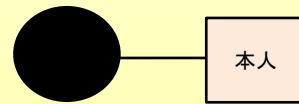
[病歴] 脳梗塞
慢性硬膜下血腫

[ADL] 自立
入浴時は一部介助

[経済状況] 22万円/月
預貯金 400万円

[本人の意向]
・出来る限り自宅で暮らしたいが、万が一のリスクを考え、施設入所も検討していきたい

ご家族の状況



- ・妻は3年前に他界
- ・9人兄弟の6番目。認知症の妹が遠方に住んでいるが、他の兄弟は亡くなっている
- ・姪や甥はいるが絶縁状態
- ・借家住まい

必要とされている支援

施設紹介

入院・入所時の身元保証

遺言書作成支援

死後事務委任

支援内容と動き

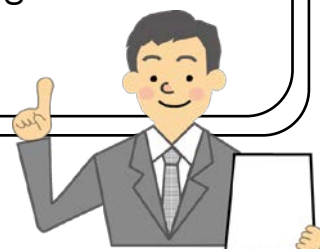
1.
本人へ連絡し訪問アポイントを取り、訪問。
予めケアマネジャーがパンフレットを渡して
くださっており、それを使って支援内容と料金
についてご説明

2.
ケアマネジャー立会いのもと、約款の読み
合わせをおこない、身元保証及び死後事務
委任契約を締結

3.
ご契約から数週間後に、本人が自宅で倒
れたとケアマネジャーより連絡。
救急搬送時の対応、入院及び退院手続き
をおこなった

4.
月1回の定期訪問による安否確認を継続。
もしものリスクに備え、年金内で暮らせる施設
探しを並行しておこないご提案。
また、本人の意向を伺いながら、公正証書
遺言作成に向けて準備中

できるだけ長く、自立したご自宅での生活が送れるよう、介護・医療と連携
し支援を継続しながら、もしものリスクに備え「介護施設」の情報も
提供していきます



支援のポイント

- ◎ 緊急時の対応はもちろん、定期訪問時に感じた日常生活での様子などもケアマネジャーに報告し、サービス担当者間で共有していく
- ◎ 本人が安心して最期を迎えられるような支援